

Dreams Come True

発行：進路担当

明日、野洲高校の説明会です！

先日も案内をしましたが、明日の放課後の時間帯に、野洲高校の入試説明会を実施します。説明会では、野洲高校の特徴についての説明に加えて、新入試制度についての話も詳しく説明されます。

野洲高校の進学を希望・検討している人はもちろん、今は別の高校を……と考えている人も、参加して損はありません。お誘いあわせのうえ、ぜひ参加してください。

参加は希望制となっており、事前の申し込みは不要です。希望する人は、明日の放課後に、多目的ホールに直接来てください。

野洲高等学校 入試説明会

【日時】
2025 年 5 月 29 日(木)
16:00～(帰りの会後)

【場所】
野洲北中学校 多目的ホール

【内容】
●野洲高校の特徴について
●新入試制度について

上記の通り、入試説明会を実施します。
希望する生徒は、当日に多目的ホールにお越しください。
(申し込みは不要です)

※保護者様の参加も大歓迎です。
希望される方は、当日に多目的ホールにお越しください。
(お車でお越しの場合は、校門をふさぐことのないようご注意ください)

進路希望調査を終えて……

先日「進路希望調査」を締め切り、集計しました。この機会に、進路についてはじめて考えたという人も多いようです。今回の調査について、下に少しまとめました。読んでみて、今後の参考にしてください。

① 早く提出し、正しく書けている人が、多くいました！

提出の〆切よりも早めに、また、正しく書けている人が多かったように思います。ただ、特にギリギリに出している人に多かったのですが……

- 記載に間違いがある(「機械」の「械」の漢字間違いや、存在しない学科を書く等)
- 修正テープを使用して訂正している(修正テープで訂正した書類は受理されません)

といったミスが多くありました。人間、ギリギリになればなるほど慌ててしまってミスをしてしまうものです。進路の書類、特に願書については、ミスがあったら受付してもらえません。最悪の場合、受験できなくなってしまいます。そうならないように、特に今回ギリギリに出した人やミスをしてしまった人は、次回以降、早めにいいに提出ができるように気をつけましょう。



② 「希望理由」が、あまりはっきりしていない印象を受けました。

高校の名前を具体的にあげている人が多い反面、「希望する理由」のところが「興味があるから」「家から近いから」「なんとなく」など、あまり具体的に記載できていない人が多いように感じました。

中学校卒業後、進学先が自分に合わずに途中で辞めて、別の道に進む人が一定数います。辞めてから中学校に顔を出す卒業生も多いので、話をきいていると、圧倒的に多いのは、人間関係がうまくいかずに辞めた人……ではありません。「塾に言われて学力が合うと思って行ったけど、ついていけず、このままだと留年だと言われてしまい、通信制などに進路変更した」とか、「親にすすめられて行ったけど、高校の学習内容が自分がやりたいものと違って、やる気をなくしたので私立の普通科に入りなおした」というパターンです。このパターンで辞めた人は、中学生のときに事前に学習の内容や学習のペースなどをしっかり把握できていれば、進学する前にミスマッチを防げたのでは……と思われます。

「彼を知り、己を知れば、百戦危うからず。」といひます。自分の実力を客観的にとらえ、そして希望する進路先のことをもっと知り、ミスマッチを防ぎましょう。そのためには、高校のオープンキャンパスなどで情報を集めることが不可欠です。自分のことですから、しっかり自分で情報を集めるようにしましょう。

③ 「ここなら行けるだろう」と考えている人がいるようですが……

「希望する理由」のところでもう一つ多く気になったのが、「自分の学力に合っているから」とか、「ここなら行けるから」、あるいは「偏差値がちょうどいいから」といったものでした。自分の学力を正確に把握できている？とも思いますが……高校の合否が、そもそもどのように決められているかは知っていますか？

高校の合否の判定は、私立と県立によって異なります。おおむね、以下のように決まっていますので、ぜひ読んでみて参考にしてください。

【私立】

「専願」と「併願」がある。県立より入試が先にあるので、「専願」の生徒については合格させたら必ず入学するから人数がはっきりするが、「併願」については、県立の入試の結果しだいだから、どうやって合否を決めるのかが難しい。私立高校にも「定員」が決まっており、これは申請して許可されるものだから、勝手に高校の都合で増やしたり減らしたりできない。学校の設備も限られているので、予定より多すぎる生徒が入ってくると、教室が足りなくなってしまう。（実際、合格させすぎてクラス数が増えてしまうと、国や県から指導されてしまうことになる）

そこで、ほとんどの私立高校では、併願の生徒の「戻り率」、つまり、「県立が不合格になり私立高校に入学になる人数の割合」を予測して、慎重に合格のラインを決定しておられます。例年のデータも参考にされますが、特に「その年の県立高校の志望の状況」なども参考にされますので、この合格ラインは年によって大きく前後することになります。私立高校に受験に来る生徒の学力も年によって違うので、「去年の過去問だと合格最低点が〇〇点だったけど、私はそれより少し上の点が取れたから、絶対合格だ。」とは、必ずしも言えない、ということです。



【県立】

全員が「専願」となるので、いわば椅子取りゲームのように決まります。定員を超えて合格させることは、ありません。ですので、いわゆる「定員割れ」となれば、よほどのことがない限り合格となります。

全員の入試の点数と調査書（いわゆる内申）の評価が良い順に、定員いっぱいまで取られるということになりますので、

●その年の定員 ●受けに来た人数（倍率） ●受検している生徒
によって、合格ラインは相当左右することになります。

たとえば、ある高校で「去年はこの時期の実力テストで 300 点の生徒が余裕で合格できたから、今年も大丈夫だ」と考えて受検をしたとしても、その年の倍率が高かったり、受けに来た生徒の学力や成績が高かったりすると、「350 点の生徒でも不合格になってきてしまう」ということは、よく起こることです。

ですので、前の年の点数や成績だけでは、正確な判断ができずに、結果として不合格になることはよくあります。入試制度が大きく変わる今年については、なおさらです。各高校の「偏差値」は、まさに去年までのデータを参考にしているものなので、参考程度にはなりますが、鵜呑みにするのはとても危険なです。実は、学校の進路指導では、より正確に判定をするために、「偏差値」は使用していません。

上のようなことから、今の段階ではもちろん、受けてみるまで「絶対受かる」「絶対落ちる」などということとは、全くないということです。そのため、「ここなら行ける」かどうかは、実際に受けてみないとわかりません。偏差値はあくまで、「もしあなたが去年受けていたら……」という情報なので、参考程度だよ、ということを理解しておきましょう。

また、合否のラインは毎年変わるのですが、高校のほうで「今年の生徒は合否のラインが低かったから、そこに合わせて学習のペースを落とそう……」というようなカリキュラムの変更は、基本的に行われません。各高校のカリキュラムは、例年と同じように進めていかれますので、「とりあえず受かったら大丈夫」という考え方は危険です。そのため、実際に高校に行ってから、ついていけるかどうかを考えて高校を選ぶことが大切です。（ここ数年でも、ギリギリで合格したけど学習のペースについていけず途中で辞める生徒が、とてもたくさん出てしまっています）できることなら、進学している先輩たちがどう言っているかを聞くと、とても参考になると思います。

加えて、「学力のことしか考えていない」形で進学した人は、その後高校が合わずに辞めてしまうケースが多いです。高校にはそれぞれ、「校風」と言われるものがあります。同じくらいの学力だとされる高校でも、学校の雰囲気や先生方の様子、部活動の特徴や行事など……かなり異なっています。学力面だけでなく、オープンキャンパスなどを利用して、どんな学校なのか実際に体験して考えるようにしましょう。

「行けるから、行く」のではなく、「行きたいから、行く」。 そんな、進路の実現のために。友達、先輩、塾、先生、家族……みんな、キミの事を思ってアドバイスをくれます。それは、とてもありがたいこと。でも、キミの人生は、キミが切り開くもの。納得がいく進路選択を、自分の手で行いましょう。